

新アリーナの実現に向けた協議会(第1回) 議事録

日 時: 令和8年7月7日(火)18時から約1時間

場 所: エディオンピースウイング広島 4F ビジネスラウンジ

参加者: 【委員】敬称略・順不同

広島県知事 横田 美香

広島市長 松井 一實

広島商工会議所会頭 松藤 研介

西日本旅客鉄道株式会社広島支社長 飯田 稔督

公立大学法人福山市立大学都市経営学部長 渡邊 一成(座長)

一般社団法人広島イベント事業振興協会理事長 松本 朋憲(発起人)

株式会社広島ドラゴンフライズ代表取締役社長 浦 伸嘉(発起人)

【オブザーバー】

中国地区コンサートプロモーターズ連絡協議会

NPO 法人広島トップス

株式会社サンダース&マーヴェラス

尾長地区連合町内会

エキキタまちづくり会議

広島都心会議

独立行政法人都市再生機構

ひろぎんエリアデザイン株式会社

議 題: 1. 座長について

2. 第1回新アリーナの実現に向けた協議会資料

①新アリーナ構想のこれまでの経緯

②新アリーナ候補地等

③アリーナの必要性・意義

④他都市のアリーナ事例

内 容: 以下のとおり。

(※以下の議事録について、発言趣旨が変わらない範囲で、口語体を文語体にするなど修正しています。)

(司会)

それではお時間となりましたので、これより新アリーナの実現に向けた協議会を始めさせていただきます。私は本日司会を務めます、廣瀬桃子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、発起人を代表して広島ドラゴンフライズの浦社長よりご挨拶をいただきます。

(浦社長)

皆さんこんばんは。

ただいまご紹介いただきました、株式会社広島ドラゴンフライズの浦です。本日は、第1回新アリーナの実現に

向けた協議会ということで、横田知事、松井市長、松藤会頭、飯田支社長、渡邊先生、遅い時間からお集まりいただきまして、そして関係者の皆様、ステークホルダーの皆様、メディアの皆様、本当に多くの方にお集まりいただき、期待値が高い新アリーナの協議会になると思っております。

長丁場になるかもしれませんが、今日は新アリーナに向けての想いを語らせていただきますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（司会）

浦社長ありがとうございます。この協議会はお手元の資料1にございますように、新アリーナの実現に向けて、オール広島で新アリーナ建設の方向性について取りまとめるのが目的でございます。それでは、議題1の座長について、発起人の広島イベント事業振興協会の松本理事長からご説明をお願いいたします。

（松本理事長）

はい。協議会の進行に当たっては、座長が必要であり、発起人として座長を指名させていただきたいと思います。福山市立大学都市経営学部長を務められている渡邊教授は、学識経験者としてこうした協議会への参加実績が豊富であり、長年、広島市都市計画審議会の会長を務められたご経験など、まちづくりへの造詣も深いことから、座長として、適任かと思っておりますので、渡邊教授を座長にご指名させていただきたいと思います。

（司会）

皆様ご異議ございませんでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。それでは、これからの議事進行は渡邊教授をお願いいたします。

（渡邊座長）

ただいま座長を拝命しました、福山市立大学の渡邊でございます。よろしくお願いいたします。今日は7月7日、七夕でございます。皆様も幼い頃、短冊に願い事を書き、思いを念じながら笹に括り付けられた経験があらうかと思っております。

本日、ご臨席の皆様の願いは、賑わいのある、安心・安全で住み続けたい、働き続けたい広島にしていきたい、そしてその実現に向け、オール広島で総力を上げて広島の未来を創っていききたいということだと思っております。本日は広島の未来にとって、とても有意義でかつ都市の装置、機能としてやはり不可欠だと私は思っています。新アリーナについて、その実現に向けた協議を進めて参りたいと思っております。日頃よりお考えのこと、そして忌憚のないご意見を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

以降、着座にて進めさせていただきます。

それではご多忙の皆様にお集まりいただいておりますので、早速ではございますが、お手元にございます議題に基づいて、協議会を進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず、資料2及び資料3について浦社長からご説明をお願いいたします。

（浦社長）

それでは早速、広島ドラゴンフライズの浦より、新アリーナ構想についてご説明いたします。

構成としては、新アリーナ構想のこれまでの経緯、新アリーナ候補地等、アリーナの必要性・意義、他都市のアリーナ事例についてです。私は、広島ドラゴンフライズの代表取締役という立場、一人の県民という立場、そして広島ドラゴンフライズにおいて 2020 年から務めております新アリーナ準備室の室長という立場から、ご説明いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

新アリーナ構想に至るまでの出発点は 2018 年になります。「中国 5 県プロスポーツネットワーク(スポコラファイブ)」において、B リーグの将来構想を踏まえた新アリーナの必要性について意見交換を行い、新アリーナ構想をスタートいたしました。

2020 年 6 月には、先ほどご紹介いたしました新アリーナ準備室を立ち上げ、情報収集、調査、研究といった、新アリーナに関する取り組みをスタートいたしました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、新アリーナ構想がストップいたしました。

その流れの中で、2023 年 3 月のこととなりますが、新アリーナの話が進まないとなると、現在取得しております「B プレミア」のライセンスを付与していただくための条件(アリーナ要件)をクリアすることが非常に困難となるため、急遽、広島県に対して広島グリーンアリーナの使用に関する要望書を提出いたしました。

広島県のご理解とご協力により、2023 年 3 月に要望したところ、2026 年から 5 シーズンを目安に暫定利用を認めていただくことができました。これにより、何とか B プレミアのライセンスを取得することができました。この場をお借りして、改めて広島県に深くお礼申し上げます。

その後、シンポジウムもスタートし、2024 年 5 月に第 1 回、2024 年 8 月に第 2 回のシンポジウムを実施いたしました。2024 年 10 月には、JR 西日本に対して、JR 西日本広島支社跡地の活用策として多機能アリーナの設置に関する要望をいたしました。

2024 年 11 月に、広島県、広島市、広島ドラゴンフライズ、イベント協会、JR 西日本などが参加する勉強会を開始し、「夢の新アリーナ応援プロジェクト」を発足いたしました。

その後、署名活動を開始し、10 万人を超える方々が署名にご協力くださりまして、2025 年 10 月にはこの署名を添えて、要望書を広島県、広島市、JR 西日本へ提出いたしました。

その後、第 3 回のシンポジウムを実施し、広島県と広島市のトップ会談において、新アリーナの実現について、二葉の里地区の一体的なまちづくりの一環として県・市が連携して取り組むことが確認されました。

そして 6 月に第 4 回シンポジウムを実施し、本日、キーワードとして「オール広島」を掲げ、アリーナ実現を目指して「第 1 回新アリーナの実現に向けた協議会」を開催するに至ったというのが、ここまでの経緯となります。当初は「夢のアリーナ」と「夢」という言葉を冠しておりましたが、今回はその「夢」を取り、夢を現実にしていくという決意のもと、新たに名称を「新アリーナの実現に向けた」と改めております。

続きまして、新アリーナ候補地についてです。

候補地は、広島市東区二葉の里にある、敷地面積約 18,800 平方メートルの JR 西日本所有地となります。収容人数に関しましては、後ほど詳細をお話しいたしますが、1 万人規模が望ましいと考えております。

目標のスケジュールですが、広島グリーンアリーナの暫定利用が 2026 年から始まり、5 年間を目安としておりますので、その間に設計や都市計画手続きを行い、2031 年の開業を目標としております。

続きまして、アリーナの必要性、意義についてご説明いたします。

背景としては、我々の B リーグにおける「B プレミア」、および広島サンダーズの SV リーグにおける「SV ライセンス」のアリーナ要件があります。両リーグともに「5,000 席以上」の観客席に加え、VIP ルームや VIP エリアの整備がライセンス要件となっています。現在、広島県内においてこの基準を満たす施設はグリーンアリーナ以外にないということが、一つ背景にあります。

また、広島はコンサートのツアー需要を取りこぼしてしまっているという現状もあります。今シーズンから我々も使用するグリーンアリーナは、本当に素晴らしく、高稼働でニーズの極めて高いアリーナとなっております。こうしたアリーナの不足が広島の街の魅力の低下に繋がっているという懸念があるため、これらの課題を解決するために新アリーナを実現させたいと考えております。

新アリーナ実現による効果として、我々広島ドラゴンフライズやその他のスポーツチームがホームアリーナを確保でき、継続して上位リーグに参画することが可能となります。また、住民の皆様の誇りや地域の活力に繋げることができると考えております。さらに、新アリーナが完成すれば、ライブコンサートを積極的に誘致し、いわゆる「広島飛ばし」の解消に寄与できると考えております。

もう一つ、広島グリーンアリーナに関する件です。我々が広島グリーンアリーナを使用するにあたり、同施設を利用されている各競技団体の皆様に対し、「2026 年から 5 シーズン、グリーンアリーナにおいて、年間 24 日から 26 日間、興行として使用いたします」という趣旨のご説明を各所にいたしました。その際、各団体からは「広島グリーンアリーナでアマチュア競技の中国大会や全国大会をもっと開催したいが、日程調整が難しくなかなか開催が出来ていない」という声をいただきました。

新アリーナが完成して我々が新アリーナへ移転することで、広島グリーンアリーナにおいてアマチュア競技の中国大会や全国大会が開催出来るようになります。そのため、各競技団体からも「ぜひ新アリーナを造ってほしい」とのお言葉をいただきました。新アリーナを建設することは、既存施設であるグリーンアリーナとの連携を生み出し、広島グリーンアリーナの利用者にとっても大きな恩恵をもたらすものと考えております。

また、広域集客機能の向上や広域周遊の促進にも繋がりますし、即効性のある話ではないかもしれませんが、若者の流出対策にもなると考えております。若者が求める人気アーティストのライブコンサートの開催など、多様なイベントが開催可能となるため、若者の流出を防ぐ一つの重要なポイントになると考えております。

まとめますと、新アリーナを実現することにより、都市間競争を勝ち抜き、広島の都市格を向上させていくことに繋がると考えております。

アリーナの必要性、意義における「アリーナの活用例」をお話いたします。

以下のような多様な活用を想定しております。

- 音楽興行：国内外のトップアーティスト、アイドル等の音楽ライブ、ショーイベント、エンターテインメントフェスティバル
- ホームアリーナとしての活用：広島ドラゴンフライズ、および SV リーグの広島サンダーズ(※参入の場合)
- 各種イベント・式典：各種式典、エリア MICE(会議・研修等)
- スポーツ大会：大型スポーツ大会、e スポーツ、格闘技、その他(バドミントン、ハンドボール等の全国大会や国際試合、興行)
- その他：フィギュアスケート、アイスショー、地域振興イベント

また、最近では「TGL」と呼ばれる、室内でバーチャル技術を活用したゴルフの大会が国内でも少しずつ始まっております。アリーナの中でバーチャルゴルフを開催するというのも、新しい活用形態の一つとして考えておりま

す。

さらに、興行だけでなく「災害時の拠点としての機能」も重要であると考えております。広島駅前という立地特性から、施設特有の設備を活用し、地域の災害対応拠点や帰宅困難者の一時避難拠点として活用できます。支援物資の集積や、ボランティアの集合拠点、およびその活動スペースとしての提供も十分に可能です。新アリーナは、興行施設であると同時に、防災機能を備えた極めて重要な「都市インフラ」になると考えております。

続きまして、アリーナの必要性、意義における「公共性・公益性」について説明いたします。新アリーナは関連法令および行政計画の趣旨に合致し、県民・市民生活の質の向上や広島が抱える都市課題の解決に資する、公共性・公益性の高い施設であると考えております。

- 「ひろしま都心活性化プラン」の実現：新アリーナの建設候補地が所在する広島駅周辺地区は、広島県及び広島市が策定された「ひろしま都心活性化プラン」において、新たな賑わいと交流を生み出していく「陸の玄関ゾーン」に位置づけられております。新アリーナ構想は、まさにこのプランの実現を具体的に支えるプロジェクトになると考えております。
- 「二葉の里地区まちづくり」の方針に合致：同地区では、広域的な拠点性を高めるために、業務機能および教育・人材育成機能を主体とし、商業・文化等の機能が複合した土地利用を目指すとしております。したがって、この地区に新アリーナを整備することは、商業、文化、教育、人材育成、業務機能が融合した都市施設を創出することとなり、計画の方向性に完全に合致するものと考えております。
- 良質な鑑賞・体験機会の提供と生活の質の向上：スポーツや文化芸術に関する良質な鑑賞・体験機会を県民・市民が享受できる環境を整えることは、生活の質の向上に大きく寄与します。新アリーナを通じて、市民の皆様にスポーツ、音楽、文化を身近に体験できる場を提供したいと考えております。
- スポーツ振興の促進：広島県が目指す「スポーツを通じた地域・経済活性化、競技力向上」と、広島市が目指す「スポーツ王国」の実現にも、新アリーナは大きく貢献するものと考えております。
- 地域交流拠点としての活用：興行が行われない日程におきましても、アリーナの一部を開放するなどして、地域の交流や活動の場として活用することで、地域コミュニティの維持・活性化に貢献してまいります。なお、最後の防災機能の向上に関しましては、先ほど申し上げたとおりとなります。

続きまして、「アリーナを起点としたまちづくりの必要性」についてです。

新アリーナは広島駅前という立地優位性を生かすとともに、官民連携による「二葉の里地区まちづくり基本計画」の方向性と合致するものであり、都心の回遊性向上と、まちづくりのさらなる推進を導く起点になると考えております。

広島市が策定されている「都市計画マスタープラン」においては「楕円形の都心」という概念が示されており、広島駅周辺地区と、紙屋町・八丁堀地区、平和記念公園、平和大通り、中央公園などが有機的に結びついた都心像が描かれております。

ひろしま都心活性化プランにおいては、広島駅周辺地区は、新たな賑わいと交流を生み出す「陸の玄関ゾーン」と位置づけられております。「二葉の里地区まちづくり基本計画」でも、業務機能、教育・人材育成機能、商業、文化などの機能を複合させることが求められております。したがって、新アリーナはスポーツ、文化、ビジネス、教育が交差する拠点として、この計画に沿った都市機能を提供できると考えております。

また、「新アリーナの実現によりもたらされる効果」として、まず「都心の回遊性向上」が挙げられます。「広島都心会議」のビジョンにおいても、1 万人規模の大規模集客施設の整備が求められていると伺っております。新アリーナを核として都心来訪者の回遊を生み出すことで、広島駅から紙屋町、八丁堀、平和記念公園へと人の流れが自然に生まれるような都市構造を作ることができると考えます。さらに、路面電車の駅ビル乗り入れも契機とし、駅、街、エリアの連携を強化することで、さらなる都心活性化を図ることができると考えております。

また、「まちづくりの総仕上げ」という意味合いもあると考えております。広域集客力を有し、広域周遊の起点となるアリーナは、陸の玄関口にふさわしい都市機能です。新アリーナを目的施設として、都心の回遊性向上と二葉の里まちづくりの総仕上げを、官民連携のもとで一体的に推進していければと考えております。

続きまして、アリーナの必要性における「地域資源の存続、文化振興」についてです。冒頭で「1 万人規模」とお話ししましたが、ここで詳しくその根拠についてお話しします。

B プレミアのホームアリーナ検査要項では、収容人数が「5,000 人以上」と定められております。昨シーズン（2025-26 シーズン）の B1 における平均入場者数は 5,109 人であり、9 チームにおいて平均入場者数が 5,000 人を超えております。中でも最も集客数の多い名古屋ダイヤモンドドルフィンズは、平均入場者数が既に 1 万人を超えております。このように、アリーナの規模と人気の相乗効果が明確に表れていると考えられます。音楽興行においても、国内の著名アーティストや海外アーティストともに、大規模な公演が増加しております。事業収支の観点からも、1 万人規模の施設ニーズはこれまで以上に高まっている状況です。

様々な情報を収集した結果、首都圏のアリーナと同様に、演出上の床荷重の問題や音響設備などが対応可能な施設でなければ、公演を誘致することが困難であると伺っております。そうした点からも、現在は 1 万人規模のアリーナが全国のスタンダードになっていると考えております。

こうしたスポーツとエンターテインメントの両側面から見ますと、広島においては、やはり 1 万人規模のアリーナ施設が必要であると考えております。

現在の広島グリーンアリーナは、スポーツ用途での収容人数は約 6,200 名、エンターテインメント用途では見切り席などの関係もあり約 7,000 名となっております。プロスポーツや有名アーティストの大規模コンサートを継続して広島に誘致していくためには、やはり 1 万人規模の新アリーナが必要不可欠であると考えております。

続きまして、西日本および広島エリアのアリーナ施設についてです。昨今、各地で様々な新アリーナが続々と誕生しております。

新アリーナがアーティストやイベント主催者に選ばれるアリーナとなるためには、最新の設備、特に「音響設備」を重視する必要があると考えております。そのため、設計段階から最新の設備についてしっかりと検討していきたいと考えています。

このように、新アリーナは広島グリーンアリーナと役割分担をしながら、広島全体におけるスポーツ、文化、ビジネスの受け皿を拡充する施設にしていきたいと考えております。

最後に、資料 3 の「アリーナ事例集」についてご説明いたします。これはスポーツ庁が出されている資料ですが、いくつかピックアップしてご紹介いたします。

- ・ SAGA アリーナ：2024 年に建設されたアリーナで、個人的に非常に注目しており、素晴らしい施設だと感じております。開業から 3 年が経過しておりますが、来場者は毎年 40 万人以上と伺っております。

佐賀市は人口約 22 万人の都市ですが、佐賀県の人口の 50%以上に相当する方々が来場されているということで、大変な盛り上がりを見せていると聞いております。本日の新聞でも報道されておりましたが、佐賀アリーナの活況に伴い、近隣にホテルの建設予定があるなど、小規模な都市であってもアリーナを起点としてこれほど街を活性化できるのだという実例として、非常に注目しております。B リーグの盛り上がりはもちろんのこと、B'z のコンサートや、羽生結弦さんのイベントが開催され、大きな賑わいを見せています。もちろん、災害時の輸送拠点や一時避難所にも指定されております。

- IG アリーナ：IG アリーナは観客席が立ち見を含めて 1 万 7,000 席と、非常に規模の大きなアリーナです。VIP ルームをはじめ、飲食・物販スペース、医務室、メディア室、多目的室などが完備されております。B リーグにおいては名古屋ダイヤモンドドルフィンズのホームアリーナとなります。先日も大相撲の名古屋場所が開催されたほか、スポーツの国際大会やボクシングの世界タイトルマッチなど、様々な大会が開催されています。同クラブは、以前は 5,000 人強であった集客数が、新アリーナ移転後に 1 万人以上へと急増し、平均入場者数でリーグ 1 位を記録しました。この新アリーナへの移転が、クラブの飛躍的な成長に直結している好例と言えます。
- 三河安城交流拠点アリーナ：最後にもう 1 箇所、三河安城交流拠点アリーナをご紹介します。本アリーナは、JR 三河安城駅から徒歩 3 分の好立地にあり、観客席は約 5,000 席、VIP ルーム 13 室とラウンジなどを備えております。B リーグの公式戦はもちろんのこと、SV リーグの試合も年間 22 日程度見込んでいるとのことで、B リーグと SV リーグが連携してアリーナを運営していく方針をとられています。我々も同様の連携体制が構築できれば素晴らしいと考えており、非常に参考にしております。こちらも当然ながら、先ほどから申し上げている防災支援拠点、物資集配拠点、帰宅困難者の一時避難所としての機能検討が進められております。

以上が「新アリーナの実現に向けた協議会」の資料のご説明となります。

広島ドラゴンフライズとしては、この新アリーナを、単なる一クラブのホームアリーナとしてだけではなく、「広島の未来を形作る都市の心臓部」として考えております。スポーツ、音楽、平和、そしてビジネスが交差し、人と街と社会のつながりを進化させる拠点として、「オール広島」で実現したいと考えております。

ご説明は以上となります。今後、事業の本格的な検討を進めるにあたり、土地の所有者であります JR 西日本様にはぜひともご協力を賜りたく存じます。また、行政、財界をはじめ、広島の皆様におかれましても、今後の検討プロセスや様々な場面において、ご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご清聴、ありがとうございました。

（渡邊座長）

浦社長ありがとうございました。それでは各委員よりご意見をお願いしたいと思いますが、まず最初に、浦社長の方からのご説明の中で、JR 西日本への協力依頼がありましたので、飯田支社長よりお話をお願いできればと思います。

（飯田支社長）

よろしくお願いいたします。JR 西日本の飯田でございます。発起人の皆様、協議会を開催いただきありがとうございます。また日頃より皆様からいろいろなご支援、ご協力賜りましてありがとうございます。

端的に言いますと、最大限頑張ります、ということです。

先ほど浦社長からご説明いただきました、弊社への協力要請につきましては、弊社 JR 西日本、JR 西日本グループとしてもこの趣旨に大いに賛同しておりますので、本プロジェクトの実現に向けて広島ドラゴンフライズ様など発起人の皆様と連携させていただいて、取り組んでまいりたいと考えております。

それから、オール広島で多くの関係者の皆様とも連携しながら、積極的に参画してまいります。官民連携の事業となることを想定していますので、官民の「民」の立場では、発起人の皆様とともに中心的な役割を担い、検討を進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今回、要請されている土地につきまして、一言申し上げたいと思います。明治時代に鉄道が開業いたしまして、広島は中国地方の鉄道ネットワークの中核として発展してまいりました。その中でも今回の候補地は、長年にわたり国鉄時代は旧広島鉄道管理局、分割民営化以降は広島支社が設置され、鉄道運営を支える拠点としての歴史を有しており、地域の発展を願い鉄道事業を支えてきた先人たちの思いが詰まった、受け継がれる、特別な場所です。

そのため、広島支社の移転が決定して以来、この土地の活用にあたっては、弊社としても広島の発展に貢献できる方策について検討を重ねてまいりました。

そうした中、この新アリーナ構想の話を聞きまして、この土地がこれまで果たしてきた役割をさらに進化させることができて、次の 100 年の広島の発展につながる新たな価値を創出する大きな可能性を持つプロジェクトであると受け止めているところでございます。スポーツやコンサート、MICE など多様な交流を生み出す新アリーナは、広島駅周辺エリアのさらなる魅力向上やにぎわい創出につながるとともに、地域経済の活性化にも大きく寄与するものと期待しております。

また、鉄道事業者として、新幹線ターミナルを有する広島駅直結の立地のため、最大限に活かし、首都圏、関西圏、九州圏をはじめとする広域からの集客促進に取り組むこともできると思いますし、またアリーナを訪れたお客様の県内周遊や滞在促進につなげることで、広島県域全体の経済波及効果が最大化できるように、関係する皆様と連携して取り組んでまいります。

当社はこれまで、二葉の里土地地区画整理事業や自由通路整備、さらには昨年開業しました広島駅ビルを含む広島駅周辺のまちづくりを、広島県、広島市、広島商工会議所をはじめとする関係者の皆様と長年にわたり進めてきているところでございます。また、本年3月に広島市様と包括連携協定を締結させていただいたので、活かしながら、新アリーナ構想を契機とした二葉の里地区のさらなるまちづくりに積極的に取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

そういった観点で、関係者の皆様には、引き続き、様々なご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

私から以上でございます。

（渡邊座長）

ありがとうございました。ただいま飯田支社長の方からまちづくりの観点から、市とも連携して取り組んでいきたいというご発言がありました。そこで松井市長からコメントをお願いいたします。

（松井市長）

ありがとうございます。今、飯田支社長から3月に締結した包括連携協定をベースにしながら、二葉の里地区の

更なる街づくりを積極的に、というお話ございましたので、我が方から、推進の仕方をご説明したいと思います。資料を見ていただくとありがたいのですが、このスライドに大体のことを記載しております。新アリーナの建設候補地を含んでおります広島駅周辺地区、本市が進めております「楕円形の都心づくり」における東の核に位置づけておりまして、広島市のこういったまちづくりが、広島広域都市圏、さらには中四国地方の中核として、市民はもとより国内外から多くの人を惹きつけ、市域を超えて県域全体の活力と賑わいを生み出す中心的な役割を担っていくエリアと設定しております。また、その同地区は県市で策定いたしました「ひろしま都心活性化プラン」におきまして、広島陸の玄関ゾーンという位置付けをしております。

二葉の里地区区画整理事業であるとか、来年度完成予定の広島高速5号線、こういったものも含めて、新たな賑わいと交流を生み出していく地域にしていくことにしておりまして、さらに二葉の里地区において、現在、県立の新病院であるとか、他の民間の開発が進められております。

そんな中でこの度の新アリーナにつきまして、多くの市民に喜ばれる施設になったエディオンピーススウィング広島と同じように、広島陸の玄関ゾーンの新たなシンボル、そういったものとして、多くの方に喜ばれる施設になるんじゃないかなと思っていて、そのこと自体を期待しているところであります。

本市としましては、新アリーナの実現などにより、まして創出される活力・賑わい、そして静謐さや地域住民の日常生活、これをしっかり調和させて地域全体が一体感を持っていくように街づくりに取り組む必要があると考えています。今、申しました考え方を踏まえて、周辺まちづくりに係る今後の進め方については、この次のスライドのとおりで、まず上位の計画といたしまして、広島市の都市計画マスタープランがあり、そこにおいて楕円形の都心づくりであるとか、ひろしま都心活性化プランにおける位置づけとして、さらには二葉の里地区まちづくり推進協議会、ここで策定いたしました基本計画、これらがありますので、こういったものに基づいての取組を進めていきたいと考えております。こうした中で、まず、まちづくりに関する主な論点として、静謐さ・日常生活に関係する地域の課題であるとか、活力、そしてにぎわいに関係します新アリーナ、これの整備等に伴う影響、どんなふうになるかということが考えられます。

今後、今、申し上げたような点を整理・分析した上で、課題解決に向けた具体的な対応策であるとか、まちづくりの方向性、こういったことについて、次回以降の本協議会の場で提案させていただければと考えております。

いずれにしても本市としては、新アリーナのまちづくりの拠点としての機能を最大限生かすことができるように、皆さんと一緒に連携・強調しながら取り組んでいきたいと考えています。以上です。

（渡邊座長）

ありがとうございました。松井市長から二葉の里地区まちづくりとして、新アリーナと広島高速5号線、そして県立新病院などを一体に捉えたまちづくりの必要性についてお話をいただきました。ありがとうございました。続きまして、横田知事からコメントお願いいたします。

（横田知事）

先程、浦社長からもご説明ありましたが、新アリーナが実現すれば、県の広島グリーンアリーナだけでは拾いきれていなかったニーズをカバーしていける部分があると思いますし、広島全体でコンサート等の開催が増えれば、多くの県民の皆様、特に若者にとって魅力あるまちづくりにもつながり、広島市都心の更なる活性化に資するものと期待しています。県としましては、この協議会で、機運醸成や利活用などについて、皆様と一緒に検討していきたいと考えています。

新アリーナの検討にあたりましては、持続的な運営の見通しが大変重要となるため、1万人規模を目指す中で、コンサート等の開催需要をどのように取り込んでいくかが大事になってまいります。その需要をどのようにして誘致していこうと考えておられるのか、本協議会で共有いただきたいと思いますし、県においても、現在コンサート需要に関する調査を進めておりますので、次回以降の本協議会で共有したいと思います。

また、スポーツ、コンサートの主催者側から選ばれるアリーナであることが重要となるため、施設設計に際してどのような配慮がなされるのか、先程、使いやすさというお話もございましたが、開催地を選ぶ際に設営効率等が重視されるとも伺っておりますので、そうした点についてもご提示いただければと思います。

新アリーナと県の広島グリーンアリーナは、相互に補完し合いながら、いかに相乗効果を発揮して都心を活性化していくかが課題だと思いますので、利活用策についても、この協議会において検討を深めていければと思っております。

候補地とされている二葉の里地区は、広島市長からもご説明ありましたが、今後は、広島高速5号線の開通、県の新病院の建設・開院もありますので、そうした中で交通課題が懸念されます。

そのため、新アリーナの開発に伴う周辺交通への影響や人流変化の想定を踏まえて、お住まいの方々の生活交通や路線バス、緊急車両などの通行確保といった課題に対し、適切な対応、例えば交通規制や誘導、公共交通の活用、駐車場の確保など、こういった適切な対応が図られる必要があるものと考えています。

特に、新病院については、急性期医療を担う病院として、人の命に関わる救急車両がいつでも円滑に通行できることが極めて大事でもありますので、まちづくりとして広島市さん、駅からの人の流れや駅へ向かう人の流れとして JR 西日本さんにもしっかりと考えていただき、一緒に解決していく必要がありますので、この点、どうぞよろしくお願いします。

また、県としては、この新アリーナが、都心の活性化とともに、県全体の発展にどのような効果があるのかが重要な視点でございます。先程、浦社長の説明でも触れられていたと思いますが、

- 県民の皆様が、スポーツ観戦やコンサート鑑賞等の機会を広く享受できるよう、県内全域から気軽にアクセスできるといったことや、新アリーナが集客装置となり、他県からも多くの方々を広島に惹きつけることで交流人口が増加する。
- JR 西日本をはじめとした交通や観光などの事業者とも連携した取組などによって、県内各地への訪問が増える。

といったことに、つながるような仕掛けをご検討いただけることを望みます。

先ほど、飯田支社長から、広域からの集客促進や県内周遊・滞在促進にも取り組んでいかれるとのお話もありましたので、ぜひ、よろしくお願いします。

こうした取組がセットで検討されれば、県全体での機運が高まり、新アリーナの実現が近づいてくるのではないかと思います。

2031 年開業を一つの目安として、この新アリーナが県民・市民の皆様にとってより良いものとなるよう、しっかりと議論を深めていければと思います。

どうぞよろしくお願いします。

(渡邊座長)

ありがとうございました。それでは続きまして、経済団体として、松藤会頭からコメントをお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

(松藤会頭)

広島商工会議所でございます。よろしくお願いいたします。私ども先月の末に初めて参画の依頼をいただきまして、時間がまだ経っていない中での参加というところであります。ということで、本所のコメントを何点か申し上げていきたいと思えます。

広島駅の周辺地区は、松井市長からご発言がありましたが、楕円形の都心づくりで重要なエリアであり、まちづくりの活性化拠点の一つとして、新アリーナの建設が進んでいくのだと考えています。アリーナの活用例について先ほどご説明がありました。スポーツ観戦やコンサートなど、各種イベントの機会が増えるということは賑わいの創出と街の活力につながっていくと、改めて認識しているところでございます。

新たな賑わいづくりの創出ということにつきましては、広島商工会議所としても同じ思いを持っております。新アリーナの実現は地域経済の活性化、都市の魅力向上にもしっかりと繋がっていくものと期待しております。

また、広島県内の他の施設、すぐ隣に広島グリーンアリーナもありますけれども、県内各地の施設との関係性につきましましては、それぞれの立地、施設の規模に適した利用のされ方があると思えます。

重要なのは他の施設との相乗効果が生まれること、そして広島を中心部だけではなく、やはり広島県全体の魅力が高まるようにしていくことだと思えます。一方で再開発が進む広島駅周辺におきまして、人、そしてモノが集中するということは、活性化という点では大変喜ばしいことだと思えます。

先ほど知事からありましたけれども、広島高速 5 号線の工事、また病院の建設も進んでいるということがございますので、将来的にこのエリアにおいて交通混雑が生じることがないように、関係各所が連携をして適切な対応を行う必要があると考えております。

これから、この運営の事業スキーム、役割分担などが協議されていくということになると思えますけれども、建設費の高騰も懸念される中、やはりスピード感を持って進めていく必要があると思えます。

また、建設にあたっては是非、地元企業の活用ということにも対応をお願いしたいと思います。本日はここエディオンピーススウィング広島におきまして、本協議会がスタートいたしました。マツダスタジアムに続いて、広島県民の熱い思いで建設されたこのサッカースタジアムにおいて、今まさに七夕の今日、先ほど渡邊座長からもありましたけれども、こうして関係者が揃いました。これまでの経験も踏まえ、次に期待される新しいアリーナへと熱い思いを繋いで、皆様と手を携えてオール広島で協議して議論が着実に進んでいくことを願っております。

交流人口のさらなる拡大も含めて、多くの方に広島に来ていただけるようなアリーナの実現に向けて、繰り返しくなりましますが、目指す開業時期ということも決まっているようでございますので、スピード感を持って広島商工会議所といたしましても最大限の努力をして参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

(渡邊座長)

はい、ありがとうございます。各委員の皆様から感想やご意見もありましたが、新アリーナの必要性やまちづくりにつながることにについて、大筋の確認ができ、新アリーナ実現にオール広島で取り組むことの意義が確認できたかと思えます。

アリーナは単なるスポーツ・コンサート施設ではなく、非常に高い公共性・公益性があり、改めてまちづくりの核施設になるという認識に至ったかと思えます。ここでちょっと私の方から発起人に確認したいことがございます。冒頭、資料 1 におきまして、本協議会の目的は、新アリーナ建設の方向性を取りまとめるというご説明をいただきました。これについては理解しましたが、今後、この協議会でどのような論点で検討を進められるのかという、

その辺りの論点整理がもしできているようであれば少しご説明をいただければと思います。

（松本理事長）

本日、アリーナの必要性・理念というところから、施設の規模、これに至るまでの事業手法、そしてスケジュール等について順を追って進めていかなければいけない、というようなイメージでいます。

（渡邊座長）

どうもありがとうございます。今、松本理事長から言われた中に、今後どのようにアリーナを実現していくのかという、いわゆる事業手法については、とても重要な論点かなと私は思っております。これについては、やはりオール広島で取り組むという、このコンセプトに基づいた、取組、事業スキームが私は必要なのではないかと考えているところですが、この事業スキームについて、現時点で発起人として何かお考えがあればお聞かせいただければと思うところですけど、浦社長よろしいでしょうか。

（浦社長）

ご質問ありがとうございます。私自身、Bリーグのホームアリーナ問題を契機に、全国各地のアリーナについて研究および情報収集を行っております。

その中でも、先ほど横田知事からもお話がありましたとおり、コンサートをはじめとする各種コンテンツから選ばれるアリーナとなるためには、的確なニーズを把握し、スピード感を持って意思決定を行っていく必要があると考えております。そのため、今後の議論を円滑に進めるためにも、開発経験が非常に豊富な土地所有者であるJR西日本様に、事業計画の検討をお願いしたいと考えております。

また、先ほど事業手法に関する現状の考えについてご質問がありましたが、当施設が公共性・公益性を有した「まちづくりの核施設」になるという点を考慮しますと、建設後はまちづくりへの貢献として、行政へ寄附することを念頭に検討してはどうかと考えております。

シンポジウムでも紹介されており、昨今採用事例が非常に増えている手法として、行政が建物を所有し、民間が運営を行う「負担付き寄附」があります。これこそが広島にふさわしく、「オール広島」の体制が最も発揮される手法ではないかと考えております。

（渡邊座長）

どうもありがとうございます。ただいま浦社長の方からJR西日本さんにも事業計画の検討をお願いしたいというご発言がありましたが、飯田支社長いかがでしょうか。

（飯田支社長）

はい、ありがとうございます。JR西日本の飯田でございます。

私どもは開発経験が豊富なわけではございません。けれども、弊社の土地で構想いただいているところでありますし、新アリーナの意義・大切さにつきましては、皆様からご意見ございましたので、できる努力はしっかりさせていただきたいと思っております。そういった意味では発起人の皆様と一緒に事業計画等の検討を進めさせていただきたく、しっかり参画して参りたいと思っております。また事業手法につきましても、先ほど浦社長から事例で負担付寄附という事業手法ということでご紹介がありました。

官民連携いたしまして、オール広島で取り組むというところでございますので、そういった意味ではこの負担付寄附という事業手法が適切で素晴らしい事業手法じゃないかなと考えたところでございます。

(渡邊座長)

ありがとうございます。私も事業手法としては、やはりオール広島で、そして官民連携で、ということを考えますと、一つの方法としては、やはり負担付寄附スキームというのはあり得るのかなと思うところでございます。そういった意味では、今度は行政として、横田知事、そして松井市長は、突然の無茶ぶりの感じで大変申し訳ないのですけれども、このご提案について、どのように受け止められたのかということを少しお話いただけると幸いなんですけれども。

(横田知事)

事業手法ということで、負担付寄附という話ですか。今、初めてそういうお考えがあるということをお聞きさせていただきましたけれど、どういう形が良いのかというのは、これからだと思いますので、今日はそういうお考えがあるんだなというところを受け止めさせていただきました。

(渡邊座長)

どうもありがとうございます。松井市長はいかがでしょう。

(松井市長)

今、知事が言われたように、新たな提案というようなことでしょうけれど、資料見させていただきますと、先ほど浦社長が説明された三河安城のところに「事業主法：負担付寄附」っていうのがありましたので、こんなことをイメージされてるんじゃないかなと想像するんですけども。こういったやり方は今までやったことありませんので、こういった問題があるかっていうのをしっかり検討して、いずれにしてもこの協議の中で、全体仕上げるために必要な手段なのか、あるいは有効な手段なのか、そんなことをしっかり皆さん一緒になって議論していければいいんじゃないかなと思っています。

(渡邊座長)

ありがとうございました。官民連携には様々な手法がございますので、またこれについては引き続き議論をさせていただければと思います。

どうもありがとうございました。今後の検討につきましては、本日の議論を踏まえ、各者において検討事項を深掘りしていただき、その成果を持って再度協議会を開催するという形としてはいかがでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それではそのように進めさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。それではその他ご意見等ございますでしょうか。

(浦社長)

本協議会自体の位置づけについて、一つお話いたします。

冒頭でご紹介いたしましたとおり、一方で継続して開催してきた勉強会があります。今後はその枠組みを本協議

会の「ワーキングチーム」として位置づけ、協議会の開催前に協議内容についてあらかじめ議論を重ねた上で、本協議会を開催したいと考えております。これまで蓄積してきた多くの情報交換や勉強会の成果を活かし、ワーキングチームとしてしっかりと議論を尽くした上で、次回の協議会に臨めたらと考えています。

また、発起人である我々とイベント協会様とで今後の機運醸成を図るとともに、さらなる盛り上げを目指してまいります。その具体的な取り組みの一案として、かつて広島東洋カープさんが行っていた「樽募金」のような形での機運醸成活動が展開できないかと考えております。現在はデジタル化など様々な手法がありますが、「広島らしさ」という点において、樽募金は誰もがイメージしやすく、協力の機運も高まりやすいのではないのでしょうか。ぜひそのような活動も視野に入れて進めていきたいと考えております。

いずれにいたしましても、このアリーナの効果を最大限に発揮するためには、本日ご出席の委員の皆様、およびオブザーバーの皆様の力を合わせることが不可欠です。本日、最も多く挙げられたキーワードである「オール広島」こそが、広島らしいあるべき姿だと確信しております。この「オール広島」の実現を目指し、今後も取り組んでまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（渡邊座長）

ありがとうございます。同じく発起人の松本理事長の方から今日の皆様のご意見を伺って、何かコメントがあればお願いいたします。

（松本理事長）

新アリーナを切望する広島ドラゴンフライズさんと当会のここでの関係についてお話をさせていただきます。

改めまして本日はありがとうございました。これまでの機運醸成の活動から本日オール広島の形で協議ができましたことに喜びと感謝思い以外ありません。

当会はイベントにおける技術、制作を担う裏方稼業であります。裏方であってもイベントはエンタメ的な楽しみを共有するだけの場では無く、就活イベント、テーマイベント、展示会など未来への情報交換の場であり、人の感性、経済、文化の成長を創造する場、言わばイベントは文化振興に重要なものであると理解している上で、裏で支えるところから表に立ってイベント業界から広島の活性化に関与できないかという思いから本拠地となるアリーナを切望されていた広島ドラゴンフライズ様と協調し、実現に向けて機運醸成の活動としてシンポジウムと署名活動を実施し、本日を迎えることができました。

業務受注の構造やイベントに関係する業種の線引きなどから経済的関与は難しいところですが、一層実現に向けた歩みを進めることができるよう謹んで参りますので、続いてどうぞよろしくお願いいたします。

（渡邊座長）

どうもありがとうございました。本日は冒頭、浦社長からご説明のありました新アリーナの必要性・意義、そして候補地などについて、各委員の皆様からの感想、あるいはご意見もあり、引き続き議論が必要なのところもありましたが、オール広島で連携して取り組むという、大筋の方向性については確認できたのではないかと考えております。各委員からいただきましたご意見につきましては、適宜、今後設置予定のワーキングチームなど事務方での検討を踏まえて、次回の協議会を開催できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは進行を司会の方に戻したいと思います。よろしくお願いいたします。

(司会)

皆様本日はお忙しい中、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。次回の協議会につきましては、別途ご案内をさせていただきます。

本日は以上で協議会を終了とさせていただきます。誠にありがとうございました。

以上